

果実生育定期調査から読み取れる特徴と今後の管理

1 リンゴ

「王林」、「ふじ」とも果実肥大は概ね平年並みとなっている。リンゴ酸含量は「ふじ」は8月1日の調査以降、「王林」では前回調査に引き続き平年より低い。糖度は「王林」が平年よりやや高いが「ふじ」は平年よりやや低い。硬度、デンプンの消失程度（データ未掲載）は両品種とも平年並みであり、今後の天候にもよるが収穫始めは平年並み（「王林」：11月4日頃、「ふじ」：11月10日頃）と予想される。

県北部の果実肥大は前回調査同様で、「王林」は平年を下回り、「ふじ」、「秋田紅あかり」は平年並みとなっている。各品種ともリンゴ酸含量は依然として高く、糖度は平年並～やや高い傾向にある。硬度は「秋田紅あかり」で平年よりも低く、その他はやや高い。「ふじ」、「王林」はデンプンの消失程度はやや遅い。

「秋田紅あかり」の収穫始めは平年並み（おい性台木：10月28日頃、マルバ台：11月2日頃）と予想されるが、着色が平年より芳しくないことから、着色を待っての遅取りによる品質低下に注意する。

2 ニホンナシ

天王分場における「秋泉」の収穫始めは、10月6日で平年より4日遅かった。果実肥大は生育前半は小玉傾向で経過したものの、後半には平年並みに回復した。

3 ブドウ

「スチューベン」は、8月の低温傾向と日照不足、10月前半の日照不足のため、着色が進まず収穫時期が平年より7日遅れた。

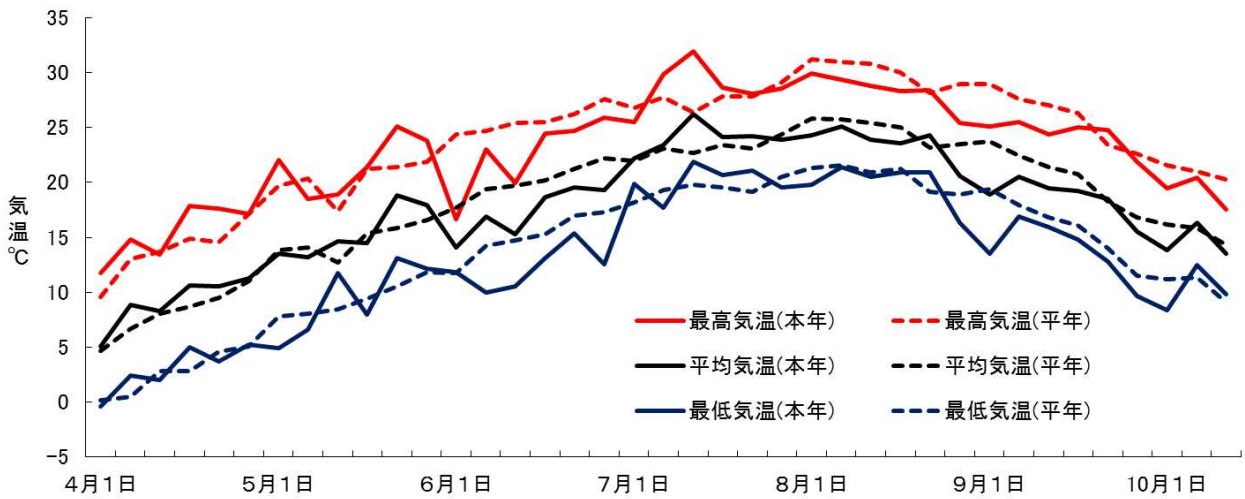


図1 最高・平均・最低気温と平年比較（果樹試験場本場）

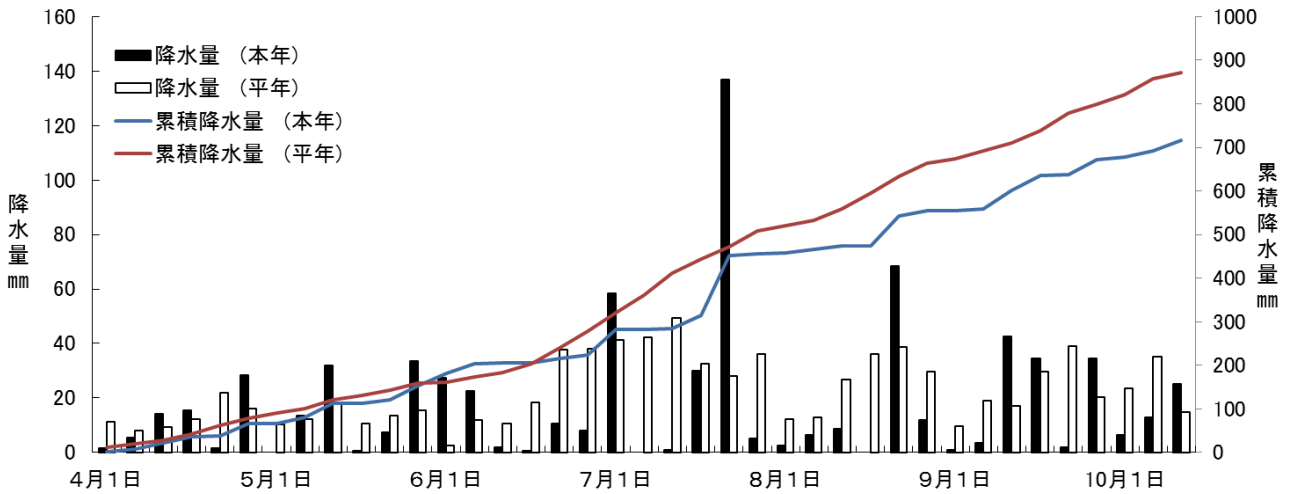


図2 降水量と累積降水量の平年比較（果樹試験場本場）

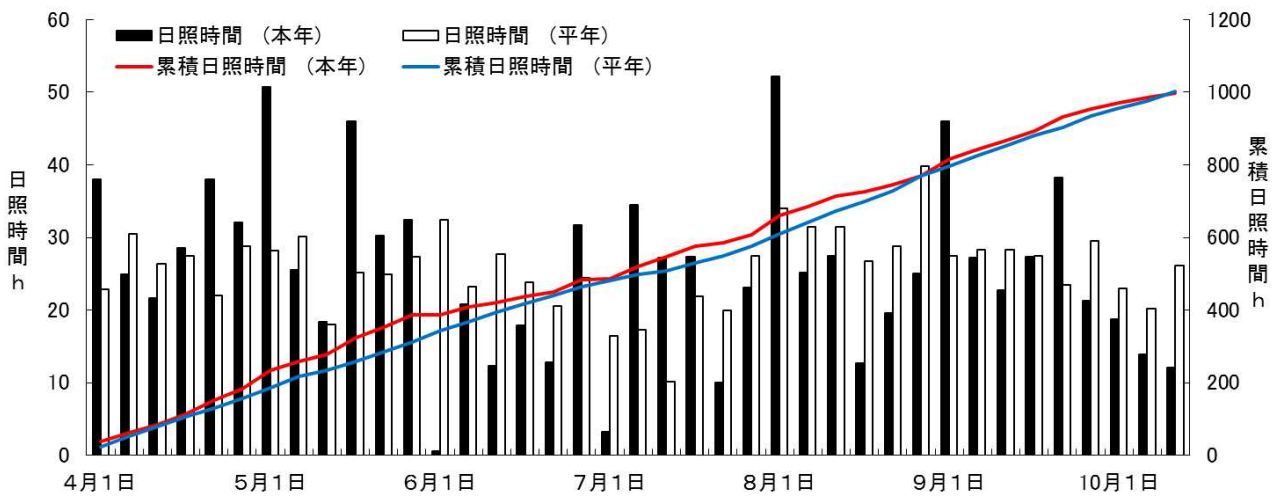


図3 日照時間と累積日照時間の平年比較（果樹試験場本場）